

第18回 第2章 現代の経済

第1節 現代の資本主義経済

資本主義体制の成立と発展

講師
篠田健一郎

学習のねらい

経済分野の学習とはどういう学びなのでしょう。私たちが当然のことと
暮らしている、この資本主義経済はどのように成立し発展してきた
のでしょうか。さらに、現代の経済はどのような特徴があるのでしょうか？

調べておこう
覚えておこう

見えざる手／有効需要／豊かな社会／
希少性／交換／価格／財産権／分業／公正／
新自由主義／効率／安定／国富論

※下記の空欄 _____ を「調べてみよう 覚えておこう」の語句で完成させましょう。

POINT 1

なぜ経済分野を学ぶのか？

今回から始まる経済分野の学習では、人、モノ、サービス、情報やお金などの動きから社会の特徴や課題を捉えます。財、サービスや資源には① _____ があるからこそ契約や取り引きが生じると考えます。①のあるものは交換をもたらし、交換の条件を金銭であらわしたものが② _____ です。

働いて賃金を得るということは、すなわち働くことにより自分の時間を犠牲にしているわけ
です。失うものを費用、得るものを利益と呼びます。

私たちは自分の必要とするものをすべて自前で用意することはできません。

そこで③ _____ することになります。③によって作り出された財やサービスは④ _____ によって社会全体に広がります。誰が利用するのが⑤ _____ がよいのか、誰がつくるのが⑥ _____ して作り出せることになるのか、誰に分け与えることが⑦ _____ か、ということが問題になります。⑤、⑥、⑦という視点から経済分野の課題を考えることができます。

POINT 2

資本主義経済の成立と発展

資本主義経済を最初に体系化したのは18世紀の経済学者、アダム・スミスです。主著『⑧ _____』で自由な競争こそが調和のとれた経済社会をもたらし、市場原理に任せれば「⑨ _____」に導かれてうまくいくと考えました。

資本主義経済は産業革命によって飛躍的に発展しましたが、景気変動や貧富の差、階級対立が深刻になります。そこで資本主義経済の矛盾を克服する経済として、社会主義経済の考えがカール・マルクスによって理論的に体系化されました。

社会主義経済の基本原理は私有財産制の否定と計画経済です。私有財産制の否定とは^⑩.....を認めないことで貧富の差をなくそうとします。計画経済とは市場原理を認めない、つまり自由競争を認めないということです。代わって中央政府の計画と指令に基づいて経済活動を行うというわけです。

資本主義経済に残りながら矛盾を克服する試みとしてジョン・メイナード・ケインズが解決策を示します。ケインズは不況の原因を^⑪.....の不足に求めました。ケインズの政策は、公共事業のような公的な需要を増やし、金利を下げて消費や投資需要を刺激して^⑫を増やし、需要不足から生じる経済の停滞を緩め、完全雇用の達成をめざします。ケインズの考え方は修正資本主義といわれ、第二次世界大戦後にはほとんどの資本主義国で採用されました。

POINT 3

現代経済の特質

ケインズ政策は第二次世界大戦後、1960年代までは順風満帆でした。政府は総需要を管理し、社会保障制度を拡充させ、資本主義経済は安定して発展します。失業者は減り、極端に貧しい人も減りました。ガルブレイズは^⑬.....と表現しました。

1970年代のオイル・ショックを機に資本主義経済は停滞します。フリードマンが個人の自由な活動を重視した経済体制に戻るべきだという^⑭.....を主張します。

社会主義経済が崩壊して、資本主義経済は地球規模に広がります。BRICS や ASEAN などの新興国が資本主義経済全体に影響を及ぼすようになり、グローバル化が進みます。新自由主義の立場を続けるのか、ケインズに戻るのか、私たちは大きな分かれ道に立っているのかもしれない。

⑩ 財産権	⑪ 有効需要	⑫ 豊かな社会	⑬ 新自由主義
① 希少性	② 価格	③ 分業	④ 交換
⑤ 効率	⑥ 安定	⑦ 公正	⑧ 国富論
⑨ 見えざる手			